

## くまがや風土記 6 星宮地区の比翼塚と愛染堂

熊谷市郷土文化会 栗原保夫

### 比翼塚

星宮地区には、毎年「コスモス祭り」にお邪魔しています。平成23年（東日本大震災のあった年）もそうでした。コスモスを見せていただいたついでに、比翼塚に行ってみました。すると、なんと、お二方の石塔が、倒れたままになっているではありませんか。「かわいそうに」「なんとか元に」そんな思いにかられ「比翼塚縁起 二人のお花見」という歌を作りました。（紙面の都合で三番のみ掲載）

（せりふ）慕い慕ってお出になった比丘尼さま。お後を追われた乗園さま。里人が憐れんで、悲しんで、建てた供養の比翼塚。江戸の昔の物語。語り継がれて今もなお

塚を背にして 乗園さまの  
可愛いお墓は 比丘尼さま  
睦まじく 寄り添って 安らかに  
花の散る様子 見えています  
両手合わせる わたしにも  
花が散ります ひらひらと

この歌を、多くの人に聴いていただきました。その中のお一人、当時、商工会議所の会頭であった木島一也様が「よし、それなら、おれが直してやるよ」と気軽にお引き受けくださり、復元してくださいました。ありがたいことです。そして、石川星宮公民館長が「それでは供養を」ということで、浄泉寺の砥柄住職様をお招きくださり、平成24年11月30日、供養も済ませました。地下においでのお二方が、顔を見合わせ、にっこり、ほほえんでいらっしやいました。

### 愛染堂（愛染明王）

愛染堂も「コスモス祭り」の会場のすぐ近くにあります。

言い伝えによりますと、愛染明王さまは、大同元年（806）の洪水の時、下川上に流れてお見えになったと伝えられています。（「日本一木三体の尊像の一つ」とも言われています。）

村人たちは、このありがたい愛染さまをお迎えし、立派なお堂を建てて、信仰するようになりました。（現在ある愛染さまは、伝承とは異なりますが、江戸時代前期の造立ではないかと言われています。）

この現在ある尊像もご立派で、市指定の有形民俗文化財になっています。目は三つ、腕は左右合わせて六本もあり、怒った表情をしています。

「愛染」という文字から、藍を染める仏さまとして、染物業者の中で、熱心に信仰されました。また、縁結びや水商売の女性の守護神としても信じられていたようです。

この愛染明王さまのお家が愛染堂です。

現在の愛染堂が、いつ建立されたのか、私は知りませんが、屋根その他が、大きく壊れています。修復の音が、地域の皆さんをはじめ、多くの方々から出ているようです。「なん



とか修復できないものか」そんな思いから「愛染時雨」という歌を作ってみました。愛染堂を直しましょうという気持ちが皆さんに伝わればと思って。(紙面の都合で三番のみ掲載)

雨に濡れても 明王さまは  
一つの愚痴も こぼさない  
これが仏の み心でしょう  
かわいそうです 直しましょうよ  
今は無住の 愛染堂に  
人の優しい 声ができる  
人の優しい 声ができる

いつの日か、愛染堂が雨の漏らないお堂となり、皆さんが、笑顔でお参りできる日の来ることを願いつつ、擱筆させていただきます。

(熊谷市公連だより 第19号 平成27年より)